

①

1082 2010/1/21

古代中国の大椿について

日本国歌「君が代」のルーツ

古代中国には椿という植物はなく思想上長寿を誇る架空植物の椿があった。それは飛鳥の古墳で有名になった架空動物に対する植物編である。

BC.360年、荘子の「逍遙遊篇」に「上古、大椿あり、八千年を以て春となし、八千年を以て秋となす」とあって、大椿は日出づる国にあり長寿を意味する木として、人々はその長寿椿壽チンジュにあやかみく尊敬した。さて椿という字は春の木と書くが、春という字は中国では東を意するので、椿の木は極東、日出づる国、日本にあると信じられていた。

奈良時代、中国使に求められて椿油2缶を支へた記録がある

又、中国より除福という人が天台烏薬という不老長寿の木を求めて来たといわれるが、何か大椿の間違いではなからうかと思つて、

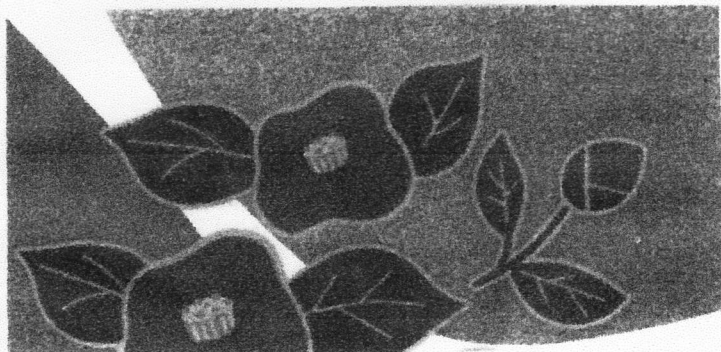
(註) 天台烏薬はクスノ科高木で中風チウフウに効くという薬。

AD.1310の「夫木和歌抄」に「君が代は唐紅チウコウの深き色に八千歳椿紅葉するまでが見られ、「八千歳椿」が更に紅葉するまでもなかなかと貴方の世が続きますよ」という歌であるが、その「八千歳椿」は明らかに大椿の椿壽チンジュにかけて歌っている。

かつて、日本国歌制定の折、この歌を参考にしたのである事は、殆んど間違いないと思つて、

(註) 夫木和歌抄とは、1310成立の藤原長清撰による私撰和歌集36巻。

尚、夫木とは仏桑花。極東にある靈木で日本国歌の歌詞ニフユウ科のムクゲ、ハヒフヒスカスフツツク等を指す



小吹和男

椿

ツバキのサイエンス

- ツバキ科 | ツバキ属 — ヤブツバキ, ヌキツバキ, サザンカ, チャ
- ナツツバキ属 — ナツツバキ, ヒメシヤラ,
- ヒメツバキ属 — ヒメツバキ, イジユ
- モッコク属 — モッコク
- サカキ属 — サカキ
- ヒサカキ属 — ヒサカキ

○ ヤブツバキ ^{カメリア} ^{ハホニカ} *Camelia japonica* L. 原産地 — 日本をめぐり
 (4エコの薬剤師 日本 の 命名者) 沿海地及
 (G.J. Kamelに因む, リンネ) その山地。他
 葉は互生、2-4月枝先に赤色一花、 平開しない
 花弁、花糸は下部で合着。

○ ヌキツバキ *C. japonica* var. ^{デクムベンス} *decumbens* 原産地 — 日本海側
 変種 横臥した。 300-1000mの山
 赤色花は平開する 地。多雪地適
 花弁、花糸は合着しない。 型。

▷ 園芸種 ヤブツバキ、ヌキツバキ、ワヒツバキ、サザンカ等を原種として作出
 された数種がある、又外国で作出されたものに大輪が多い

○ サザンカ (山茶花) *C. sasanqua* 日本特産種
 一般に低木であるが、15mになるものもある
 若枝、葉柄有毛、主脈に両面有毛、子房は有毛

